



会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆様、こんにちは。本日もお忙しい中、例会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

本日の例会が終了すると残すところあと10回となります。まずは本日ま

で皆様に様々な場面においてご協力を賜りました事に感謝を申し上げます。また、次週より任期終了までのカウントダウンが始まりますが、最後までしっかりと会長職を務めて参りますので引き続きよろしくお願い致します。

新年度を迎え、皆様はいかががお過ごしでしょうか？私は前回の例会でお話させて頂いた今年度より開始する案件の準備に追われていました。毎年の事であり何ら問題無いはずの事でしたが、今年度は過去に無いくらい新規での人材獲得が難航しています。大手企業の春闘を経たうえで大幅な賃金上昇が起こり、人材確保の争奪戦が繰り広げられています。景気が上向くことは有難い事ではありますが、人口減少、少子化が進む現在、新規で雇用する事も容易ではありません。今後は様々な工夫をして働く方を選んで頂ける企業を目指すことが必要不可欠と考えます。今後はクラブに所属する仲間同士、様々な情報を交換や共有をして、助け合いという連携を強化する事も進められたらと思っています。

本日も皆様に取りまして有意義な一日になる事を祈念してご挨拶に代えさせて頂きます。本日もよろしくお願い致します。ありがとうございました。

幹事報告

ガバナーより

1.次年度向け会員増強セミナー開催のご案内

日時:5月19日(日)13:30~15:30(受付開始13:00)

会場:第一相澤ビル8階会議室

対象者:クラブ会長エレクト、次年度クラブ会員増強・維持委員

回答期限:5月9日(木)

2.台湾東部地震への支援金依頼

寄付の目安として一人当たり千円以上をお願いいたします。

5月10日(金)(必着)までにお送りいただきますようお願い申し上げます。

湯河原ライオンズクラブより

1.湯河原ライオンズクラブ結成60周年記念式典のご案内

日時:6月5日(水)登録受付11:00~

式典12:00~13:00 祝宴13:30~15:30

会場:エクシブ湯河原離宮

登録料:16,000円 登録締め切り:5月15日(木)

連絡事項 無し

スマイルボックス

会員誕生日 葉 維英君(4/4)

会員誕生日 佐藤友彦君(4/14)

吉村行正君

先週申告するのを忘れました。副実行委員長をしていますオレンジマラソンが無事終了いたしました。

深澤昌光君

4/7(日)令和6年度武者行列・土肥祭が事故もなく盛大に実施することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

葉 維英君

淡路島蒼開高校に初めて留学生を送りまして、入学式に出席しました。とても感動で涙が出てしまいました。

出席報告

ゲスト 1名 ビジター 0名

会員 22名 欠席2名(免除者0名)

出席率 90.91%

前回の修正出席率 81.82%

前々回の修正出席率 72.73%

事前メイクアップ 3名

ゲスト 宮下睦史様(湯河原町観光課長)

皆様こんにちは。今回の卓話は本来であれば湯河原町長・富田幸宏による町政報告会とさせていただくところでしたが、皆様ご承知の通り療養明けでありますため、本日私・観光課長の宮下が参りまして、湯河原の観光についてのお話をさせていただきます。よろしくお話しいたします。

湯河原町は神奈川県西南端に位置する、東を相模灘、三方を山々に囲まれた風光明媚な町です。面積は 40.99 km²、人口は 23,292 人(令和 6 年 4 月 1 日現在。男性 10,953 人、女性 12,339 人)、高齢化率は 43.11%(県内 2 番目の高さ)となっています。古くは万葉集が編纂された時代から温泉地として知られ、昭和 30 年には湯河原町、吉浜町、福浦村の 2 町 1 村が合併し、現在の湯河原町となりました。

続いて湯河原の観光を取り巻く現状についてお話しいたします。観光客数は令和元年のおよそ 409.5 万人(日帰り客約 342 万人、宿泊客約 67 万人)をピークに、コロナ禍による落ち込みを経て令和 4 年度にはおよそ 380.4 万人に回復しました。とはいえまだコロナ禍前の水準には至っていません。年間の観光行事としましては、4 月の武者行列・土肥祭を皮切りに、ほぼ毎月のように行事が設定されています。新しいところとしましては 9 月に「コキアの郷」、10 月は「ゆがわらハロウィン」に代わる新たな行事が企画されているとのこと。

湯河原の観光についての地域特性を分析しますと、強みとして「恵まれた基礎観光資源」が挙げられます。都心からのアクセスが良好で、駅からの 2 次交通(バス)も発達しており、歴史ある温泉の泉質も良好で人気を博しています。さらに海山の自然の恵みが豊富で、四季折々の趣を感じることができます。また有名グルメスポットが点在していることも強みです。一方で都心からのアクセスの良さは、そのまま「日帰りできてしまう」という弱みと表裏一体であります。街歩きを楽しむスポットや夜間のイベントが少ないことなどもあり、エリアのポテンシャルを活かしきれていないといえます。加えて近隣の箱根、熱海、伊豆、富士などの有名温泉地と競合関係にあり、慢性的な人手不足や国内の人口減少とも合わせ、観光への脅威となる要素と向き合わなければなりません。しかしコロナ禍の終焉によるインバウンド回復、個人旅行のニーズの高まりやテレビ等への露出の増加など、ポテンシャルを最大限活かし、町で

の滞在時間の増大を目指すための機会、機運が巡ってきているようにも思われます。

湯河原町ではこの流れを受け、観光への様々な取り組みを行ってきました。目につくところとしては湯河原駅前や湯元通りのリニューアル、Park-PFI による万葉公園再整備事業がこれにあたります。今回は湯河原町の観光施策について、より具体的な経過をお話しいたします。

湯河原町観光立町推進条例が制定されたのは平成 23 年 4 月 1 日ですが、令和 3 年 3 月には第 2 期湯河原町観光立町推進計画が策定されました。また「観光立町湯河原」をみんなで実現すべく、ロケツーリズム、名物料理や商品を湯河原ブランドとして認定する「made in ゆがわら」、SNS の活用や YouTuber を招聘してのインバウンド情報発信推進事業も行っています。一方で観光立町湯河原の持続的な発展を語るに際し、担い手である温泉旅館を外すことはできません。昨今、投資停滞による施設老朽化によって客単価の低水準化が生じ、さらなるサービス低下を招く構造的な課題、いわゆる負のスパイラルに直面している地域温泉旅館の存在が指摘されています。こうした旅館に対し、経営効率化や課題の整理、支援策の検討は喫緊の課題です。湯河原町では既存観光拠点再生計画(令和 3 年度)、地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業(令和 4・5 年度)と、総事業費約 56 億円にのぼるこれら事業にて、温泉街の衰退の歯止めや面的魅力の向上をサポートしています。

またデジタル技術の活用によって観光体験の向上、運営の効率化、持続可能な観光の推進を目指す「観光 DX(デジタルトランスフォーメーション)」にも取り組んでいます。業務のデジタル化は効率化のみならず、収集されるデータの利活用によって生産性を高めることが期待されます。令和 5 年度の実施内容としましては、湯河原町の宿泊者データの収集、宿泊事業者や商工会などを対象とした研修の実施、主な施設の訪問観光客数の計測機能実装、入湯税デジタル整理簿と申請書機能の実装、デジタル宿帳機能などでした。これにより効果検証が常時直近データにて実施可能となり、地域の来訪者データを日単位で把握可能となりました。

お配りいたしました資料にはこのほか、湯河原町財政状況について掲載していますので、ご確認いただければ幸いです。本日はありがとうございました。